

原水爆禁止 2011 年世界大会・広島参加報告

2011 年 8 月 20 日 T.N

何年かぶりに、8月6日の原水爆禁止世界大会（広島デー集会）に参加した。「生協労組おかやま」からは、私とOさんの2人が参加。午前8時15分、岡山駅西口発のバス車中にて黙祷、広島バスステーションへ着いたのは11時前だったので、さっそくお好み焼きを食べに平和公園方面へ足を向ける。センター街から平和公園に抜けるところにある「長田屋」で腹ごしらえし、大会が始まるまで平和公園内外を散策した。本川小学校平和資料館は爆心地に一番近い本川小学校の敷地内にあり、被害にあった当時の校舎の一部がそのまま使われているし、展示物などから被害の大きさが伺われた。それから、原爆慰霊碑に向かった。平和祈念式典会場の片付けが行われている最中でも、何十人もの人々が列を成して慰霊碑にお参りしていた。私たちは、時間がないので参列はせず、横からお参りした。

午後12時40分頃、会場のグリーンアリーナに到着し岡山県代表団の受付に行くも、「生協労組からは申込がなかったよ」と言われ、ショックを受ける。その場で受け付けてもらいOK。オープニングの歌声に始まり、主催者報告、被爆者からの訴え、国連、政府代表の発言、海外代表、日本の草の根からの発言、文書の提案・採択、日本の運動の決意と行動提起などがあつた。岡山県からも平井さんが、「核兵器全面禁止のアピール」国際署名を県下の首長・議長宛に要請キャラバンを仕組み、27の自治体で賛同署名を得ることが出来たことを報告された。アピール署名文面にもあるようにいまなお20万を超える被爆者が苦しんでいる中、この悲劇をいかなる地にも繰り返してはならない。今こそ、昨年のNPT再検討会議で勝ち得た核保有国を含む189の国々が「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」との決議を実行に移す時だ。今年は、東日本大震災と東電福島第一原発事故をうけ、被災地支援の活動など、励まし、助け合う新しい連帯の輪が広がっている。We shall overcomeのエンディングを口ずさみながら、今こそ広範な人々と手をたずさえ、核兵器廃絶を求める国民的な運動を発展させていく必要を感じた。大会は16時前に終わったが、会場を去るときに参加者2000人との事だったが、会場の半分くらいしか入っておらず、少しさびしさを感じた。以前は会場一杯の盛況だった様に思うが、、、われわれも2人だけだし。帰りのバスまでの時間、マツダ zoom zoom スタジアムの「ただ見席」（と言ってもフェンス越しの立ち見）で広島の練習風景を見て、八丁堀の「みっちゃん総本店」でお好み焼きを食べて、午後9時過ぎ岡山に到着し51歳の誕生日を締めくくった。



原水爆禁止 2011 年世界大会ヒロシマデー集会参加報告書

M.I

当日の足どりと若干の感想を記して報告書にかえたい。

8月6日(土)午前6時00分発のJRで高校1年生の娘とともに広島に向かった。今年は、長崎が本大会の会場で、私は長崎の大会には参加したことがない。今年こそはと思っていたのだが、娘の学校の都合で断念した。それでも、ヒロシマデー集会に参加するのは久しぶりのことだ。朝早い電車を選んだのも、8月6日午前8時15分には、広島に立っていたからだった。娘にも「その日の朝」を追体験として欲しかったのだが、オヤジの一人よがりだったようだ。

広島までは約2時間の電車の旅。例年はあまり目を通さない「世界大会パンフレット」にじっくり目を通す時間があった。今年のパンフレットの特徴は、なんといっても東日本大震災と福島原発事故を強く意識してつくられていることだ。限られた紙面の中で「原発と核兵器」というテーマに4ページが割かれている。原水爆禁止世界大会は、1955年の第1回大会以来、核戦争阻止、核兵器全面禁止・廃絶、被爆者援護・連帯の3つを目標に掲げ続けてきた。“被曝”という漢字こそ違うが、これ以上ヒバクシャを増やさないという点では共通のテーマであることにはかわりはない。

8時03分に広島駅着、路面電車で原爆ドーム前まで行く。原爆ドームの前では、広島県警の物々しい警戒の中で、集会をしている団体あり、署名活動に取り組む高校生あり、原爆ドームを写生する若い女性、その女性を写真に収めるカメラマン…。それぞれの思いを秘めた人たちでゴった返していた。相生橋を渡り平和公園に。相生橋は、そのT字橋という独特の形状から、爆撃中心点(原爆投下目標)に選ばれた。平和公園内外ではいろんな団体が碑めぐりをしていた。中には日の丸の旗を持った若い一団がいたが…。彼らはヒロシマから何を学ぼうとしているのだろうか。私と娘は、原爆の子の像からレストハウスの前を通り爆心直下へ。本川小学校から本川沿いに平和公園に戻り平和大橋を渡って袋町小学校跡に向かった。袋町小学校は爆心地から500m強、原爆の爆発と同時に300名の児童が爆死、熱線と爆風で校舎は外郭を残して廃墟になった。数日後には救護所が置かれ、肉親の安否を気づかう人々が壁に多くの伝言を残した。2002年に校舎は解体されたが、その一部が記念館として保存されている。

アメリカ軍は、原爆の投下目標として選定した都市への焼夷弾攻撃は禁止していた。それは、より正確に原爆の効果を測定するためだった。しかも、原爆の投下は無警告で行われた。当時の広島市内では「建物疎開」が大規模に行われていた。その作業に多くの中学生や女子高生が動員されていた。広島市立高女の碑の前でも、関係者が慰霊祭を行っていた。横目を通り過ぎただけだが、同じ年代としてわが娘は何を感じてくれただろうか。

午後からは、グリーンアリーナで行われたヒロシマデー集会に参加した。県原水協に代表登録し忘れていたので少し入場に手間取った。本大会の時は満杯となる会場も、1階の前半分が埋まる程度。それでも空席がちらほら見える。富田宏治氏が主催者報告し、その後、被団協の坪井直氏や各国代表があいさつ。宮城・福島の代表があいさつ。各県の取り組みの報告とプログラムは進行した。岡山県からは県内の全自治体を訪問し「核兵器全面禁止のアピール」への自治体首長の賛同署名を取り付けた取り組みの報告があった。この取り組みには、私も玉野市、早島町などを訪問した。

集会終了後は、自由時間だ。ダイヤモンドシティで買物と夕食。電車で帰路に着いた。糸崎で岡山行きに連絡するはずが、備後赤坂と福山の間で踏切事故があり、三原からバスの代行運転になった。おかげで家に帰りついたら午後11時だった。三原からならバスの代行運転ではなく、福山までの新幹線チケットをくれれば…と思ったが。